

巻頭言

平成 30 年度は、これまで数年がかりで検討してきた看護学部の改訂カリキュラムの大詰めを迎え、次年度からこのカリキュラムを動かす準備を整えました。

改訂学部カリキュラムは、地域包括ケア時代に向けた看護人材養成の布石とする考えのもとに検討され、系統的な教育提供となるよう、科目内容の精査と単位数・配当年次等の改訂を行ったものです。併せて統合実習科目を看護教員全身体制で提供する内容に刷新し、学生に対する教育効果の改善を目指しています。助産師養成課程開設においては、教育備品や教員定員増等の支援を石川県からいただき、順調に学生も確保でき、スムーズな出発が実現できました。この課程の入学者は 8 割が本学学部からの直接的な進学者であったことから、波及効果として助産師養成課程に限定しない学部からの直接的な大学院進学が奨励され始めたところです。

その他の学内改革として、3つのアクションプランと3つの方針を打ち出しました。それぞれ①「図書館の充実アクションプラン」、②「広報の見直しアクションプラン」、③「基礎科学教育の拡充」、及び①「求める教員像・教員組織の編成方針」、②「教育の内部質保証に関する方針」、③「グローバル人材育成プラン」です。

アクションプランは 2023 年度完成を目標に置き、計画的に予算をつけます。「基礎科学教育の拡充」は看護系以外の教育の充実に関する検討を行います。①、②の方針は近年大学の方針を明文化することが求められている事柄についての本学の方針を示したものです。③の「グローバル人材育成プラン」は従来から本学が力を入れてきたグローバル教育（学生の海外研修）とローカル教育（地域の生活と健康とのつながりを深く知る石川県下における地域ベースの教育）の合体効果を狙う教育をあらためて明文化したものです。

平成 30 年度はこのような内容で本学の歴史に新たな 1 ページを加えましたが、加えて、今後の 10 年間に向けて、本学が目指す新たなステージの方向性が顕在化してきた年でもあったと思われます。

一方、大学をめぐる社会情勢は、学力の 3 要素を評価する大学入試改革の大詰めを迎えています。本学では、石川県内の高等学校との意見交換を重視し、集合型および訪問型の方法で高校と関係を深め、入試改革に参考になる考えの収集と本学の求める人材の周知を図りました。また高校の先生の指摘を受けてホームページを見直し、高大接続を意識したページ作りを行いました。

このような多忙な年でしたが、本来の教育研究や地域貢献とも真摯に向き合いました。この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したこと等の成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 19 回入学式
(平成 30 年 4 月 4 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 30 年 7 月 14 日)



第 14 回夏期アメリカ看護研修
(平成 30 年 8 月 31 日～ 9 月 13 日)



タイ国立チェンマイ大学看護研修
(平成30年8月25日～9月9日)



JICA 日系研修
(平成30年6月29日～7月9日)



JICA 青年研修
(平成30年11月29日～12月11日)



管理者研修
(平成30年9月21日)



認知症看護認定看護師教育課程 修了式
(平成31年2月13日)



第15回卒業式
(平成31年3月16日)